

疲れたら「ロブリンズ」

2015横浜 マラソン



支える人たち

ずつ、沿道の観客向けにも888個のハーバーを配る予定だ。「自分の強い思いが無いとやっていけない」というのは、マラソンも企業経営も同じ」との思いで大会を盛り上げる。

ハーバーは1999年、当時の製造会社が倒産し、一度はつくられなくなった。さらにその頃、藤木会長は息子を事故で亡くす悲劇に見舞われた。一時は、打ちひしがれていたが、自らの人生とハーバーの復活を誓って奮闘。地元の人らに支えられ、ハーバーは再び土産の定番に戻った。

「横浜マラソンには、いつもお土産にハーバーを買ってくれる人への恩返しのような思いも込めています」

(興津洋樹)

ランナーが栄養補給する給食所には、バナナなど定番の他に、横浜名物の「ラッキー給食」が並ぶ。フルマラソンの終盤に提供される銘菓「ありあけのハーバー」もその一つ。「横浜を代表するお菓子で糖分補給をしてもらえれば」と、ありあけ(横浜市中区)の藤木久三会長(73)。

ありあけは公式サポーターとして、給食用に「ハーバードブルマロン」と「ミルクモンブラン」を1千個

